

# 専門家と一般大衆の建築物への価値認識の差に関する研究

— ドコモモジャパン選定戸建住宅を例に —

日大生産工 ○亀井 靖子

## 1 まえがき

近代建築の維持保存に携わっていると、専門家と一般大衆の建築への価値認識に隔たりがあることを感じる。建物が保存・継承されていくためには利用者や地域住民など一般大衆がその価値を正しく理解することが不可欠である。

そこで、本研究ではドコモモジャパン<sup>注1)</sup> 選定住宅<sup>注2)</sup>を対象に一般大衆誌での掲載内容分析から、専門家と一般大衆の建築物への価値認識の差を明らかにする。

住宅の価値の所在を明確にすることが建物継承の一条件になると考え、最終的に住宅の長寿命化と良質な住宅ストックの促進を目指すものである。

## 2. 既往研究

住宅遺産の継承に関して、田村らは、住文化を築いてきた住宅や地域の住環境をつくり上げてきた住宅を対象に、データ化、継承の方法論、社会的枠組みについて、ケーススタディやシンポジウムなどから課題や可能性を示している<sup>文1)</sup>。同じく長嶋らは、近代住宅遺産の保存活用について、リストアップした住宅を対象に金銭面・継承者など住宅継承に関する課題を明らかにし<sup>文2)</sup>、継続研究では、住宅機能の有無・公開性・保存活動団体の有無などから4分類した各事例における住宅継承の問題点を明らかにしている<sup>文3)</sup>。

本研究では一般大衆の住宅への価値認識に着目し、専門家の価値認識との齟齬や、一般大衆が求めている住宅への価値の所在を明らかにすることで、住宅が継承されるための資料を提供するものである。

## 3. 調査概要

ドコモモジャパン選定戸建住宅28件を対象とし、一般大衆誌による資料調査を行った。表1は対象住宅28件の概要である。

調査対象期間は、ドコモモインターナショナルが設立された1988年から2014年までとし、資料収集には大宅壮一文庫WEB OYA-bunko<sup>文4)</sup>を利用した。建物名と設計者で検索し、該当した69件を対象に、発行年、タイトル、概要等について調査した。専門誌との内容比較には「ドコモモジャパン150-未来への遺産展」<sup>文5)</sup>を用いた。

## 4. 調査結果

### 4.1 年代による掲載記事数の推移と掲載雑誌

図1は年代による掲載数の推移である。ドコモモジャパン設立2000年以降、その数が増えている。また、ドコモモジャパン展が開かれた時期に合わせ掲載記事が増えている。

図2は掲載雑誌と掲載数である。掲載雑誌数は36であった。Casa Brutusは住宅をテーマにした大

表1 ドコモモジャパン選定戸建住宅 (28件)

No.	建物名称	年代	都道府県	設計者	構造	規模
1	山邑邸	1924年	兵庫	フランクロイドライト	RC造	4階
2	本野精吾自邸	1924年	京都	本野精吾	中村鎮式 コンクリート ブロック造	2階
●3	藤竹居	1928年	京都	藤井厚二	木造	1階
4	鶴巻邸	1929年	京都	本野精吾	中村鎮式 コンクリート ブロック造	2階
5	高津邸	1934年	兵庫	上野伊三郎		
●6	土浦亀城自邸	1935年	東京	土浦亀城	木造	地下1階 地上2階
●7	日向別邸	1936年	静岡	ブルーノ・タウト	木造	2階 地下1階
8	馬場氏島山別邸	1937年	東京	吉田鉄郎	RC造	2階
9	飯著邸	1942年	長野*	坂倉準三	木造	1階
10	原邸	1944年	東京	渡辺仁	RC造	3階
11	吉田五十八自邸	1944年	神奈川	吉田五十八	木造	1階
12	森博士の家	1951年	東京	清家清	木造	1階
13	コアのあるH氏のすまい	1953年	東京	増沢清	木造	2階
14	清邸	1956年	兵庫	吉阪隆正	RC造	2階
15	石津邸	1957年	東京	池辺勝	RC造	2階
●16	スカイハウス	1958年	東京	菊竹清訓	RC造	2階
17	上小沢邸	1959年	東京	広瀬謙二	コンクリート ブロック造	1階
18	森の中の家	1962年	長野	吉村順三	RC造(1階) 木造(2階)	2階
19	藤井沢の新スタジオ	1962年	長野	アントニン・レーモンド	木造	1階
20	正面のない家	1962年	兵庫	西澤文隆 (坂倉準三建築研究室)	RC造	1階
21	白の家	1966年	東京	篠原一男	木造	2階
●22	塔の家	1966年	東京	東孝光	RC造	地下1階 地上4階
23	川合健二郎	1966年	愛知	川合健二郎	シリンダー構造	2階
24	札幌の家(自邸)	1968年	北海道	上遠野徹	S造	1階
25	まつかわ・ぼっくす	1971年	東京	宮脇雄	RC造 木造	地下1階 地上1階
26	反住書	1972年	北海道	毛綱モン太	RC・ブロック 鉄骨・木造	3階
27	幻庵	1975年	愛知	石山修武	ねじ式 シリンダー構造	2階
28	住吉の長屋	1976年	大阪	安藤忠雄	RC造	2階

●：掲載数の多かった上位5住宅

## Study in the Discrepancy of Value Recognition between Public and Expert about Architecture

— Docomomo Japan's Registered Works of Detached Housing —

Yasuko KAMEI

衆誌のためその数が多い。その他の雑誌は掲載数に大差はなく、幅広いジャンルの大衆誌にまんべんなく掲載されていることが分かった。

#### 4.2 掲載記事内容

図3は雑誌での取り上げられ方を4分類したものである。建築関連の特集や連載で取り上げられているものが34件と一番多く、旅などの別テーマの中で取り上げられているものが21件と次に多かった。図4は掲載内容の主題分類である。住宅が主題となっているものが50件と多く、その中で建築家(8件)と家族(4件)がほぼ同様の重みで扱われていた。

一般大衆誌では、専門誌にはない、旅や家族といったテーマでの掲載が見られる特徴がある。

#### 4.3 住宅別掲載数と掲載内容のキーワード

図5は住宅別掲載数上位11住宅、表2は上位5住宅の掲載内容キーワードである。掲載数が多かったのは、「塔の家」13件、「土浦亀城自邸」10件、「旧日向別邸」7件、「聴竹居」6件、「スカイハウス」6件であった。一方、28住宅中8住宅(28.5%)は掲載数が0件であった。上位5住宅の掲載内容を専門誌と比較すると、所在地が東京都の3住宅は都市住まいのノウハウや家族(像)などが内容に取り上げられていること、静岡県「旧日向別邸」や京都の「聴竹居」は旅テーマでも取り上げられていることに特徴があった。

#### 「注」

- 1) ドコモモジャパンとはモダン・ムーブメントにかかわる建築と環境形成の記録調査および保存のための国際組織の日本支部。
- 2) ドコモモジャパン選定建物の選定基準は以下の通りである。

1. 1920年から1979年までに竣工され、現存し、オリジナルの建築的価値を残している建築物
2. 以下のいずれかを満たしており、保存が望まれる建築物
  - a 竣工当時において技術的(構造・設備・材料)な革新性を有している建築物
  - b 竣工当時において社会改革的な思想(新しいコミュニティや労働形態などの提案)を有している建築物
  - c 竣工当時において環境形成の観点(広場や建築群の構成、地域・風土への配慮)を有している建築物
  - d 原則として、幾何学的な構成に基づいた審美性(非装飾)を有している建築物

#### 「参考文献」

- 1) 田村誠邦ほか5名：「住宅遺産の継承を支える活動の構築について—アーカイブとして近代住宅遺産を継承する仕組み—」、住総研研究論文集、No.39、2012年、pp133-142
- 2) 長嶋早枝子ほか3名：「近代住宅遺産の現状例と保存活動について—保存活動における所有者・使用者・専門家・公共のつながり—」、日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)、2012年9月、pp217-218
- 3) 長嶋早枝子、落合正行、山中新太郎：「近代住宅遺産の保存活用へ向けた基礎的研究—所有者の抱える問題と保存・継承活動の問題について—」、日本建築学会関東支部研究報告集II、2013年3月、pp617-620
- 4) Oya-Sochi Library <http://www.oya-bunko.or.jp/>
- 5) 「ドコモモジャパン150-未来への遺産展」カタログ、UIA2011東京大会、2011年

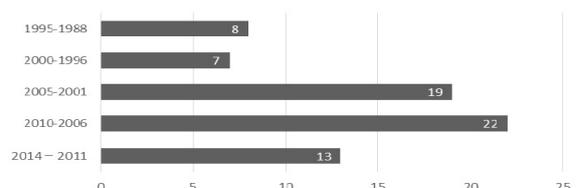


図1 年代による記事数 (n=69)

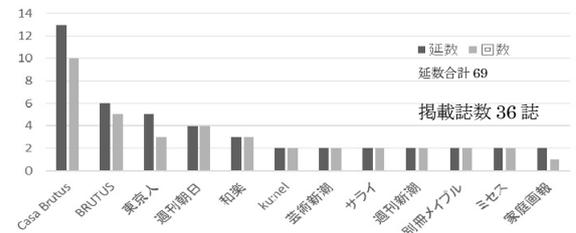


図2 住宅別一般大衆誌掲載数 (上位12誌)

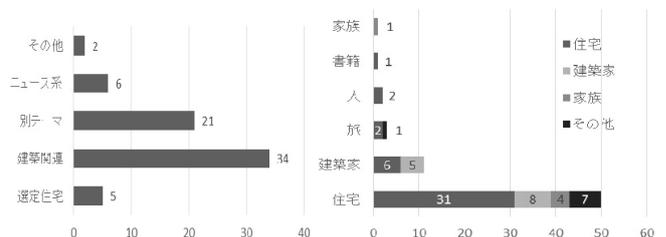


図3 雑誌での取り上げられ方

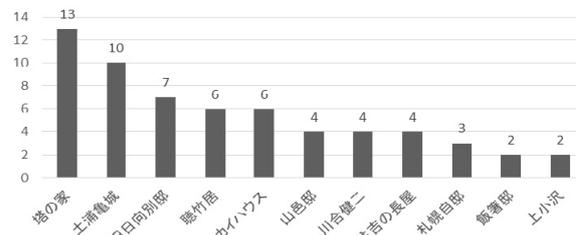


図5 住宅別掲載数 (上位11住宅) (n=69)

表2 掲載上位5住宅の掲載内容キーワード

名称	写真	竣工年	設計者	所在地	ドコモモジャパン150キーワード	一般大衆誌キーワード
塔の家		1966	東孝光	東京都	「都市に住む」コンセプト、都市住宅の在り方、20㎡の土地、延床65㎡、塔状住宅、垂直的ワールーム、歩道とレベル差、街に対する適度な距離感	都市に住む、狭小住宅、吹き抜け空間、妻と息、住み方自邸
土浦亀城自邸		1935	土浦亀城	東京都	乾式構造、都市型住宅、変化に富んだ空間構成、造り付家具、ハイブ椅子、モダニズムを具現化	モダニズム、最先端、白い箱、FLライト、自邸
旧日向別邸		1936	ブルーノ・タウト	静岡県	木造2階建、擁壁を兼ねたRの造の人工地盤、竹をふんだんに使った社交室、家具化された階段、キャットウォーク、ドイツ人建築家「新日本的なもの」の表現を試みた	ブルーノ・タウト、紀伊郡、別荘、熱海市、監
聴竹居		1928	藤井厚二	京都府	実験住宅、木造平屋、腰折れの切妻、伝統的な引戸や土壁、家全体の通風への工夫、近代美学で伝統を再解釈	実験住宅、環境共生、夏の設備、庭
スカイハウス		1958	菊竹清訓	東京都	メタボリスト、設計思想を明確に表明、4枚の壁柱、方形平面の住居スペース、地面から浮かばせる、生活要求に対応し、変化する、ムーブメントという装置	4本の壁柱、宙・空・浮く、変化に富む、メタボリスト、生活スタイル、親子、妻と息